

## 会報

# 平成 26 年度精密工学会春季大会関連事業 「元気の出る新技術講演会—産学・産産連携への集い」報告

本会の石原前会長による賛助会員および中小企業に軸足を置いた精密工学会の産学連携に対する支援に関する企画として、平成 26 年度精密工学会春季大会の初日の 3 月 18 日に、東京大学本郷キャンパスにて、「元気の出る新技術講演会—産学・産産連携への集い」を開催しました。この講演会では、賛助会員の会によるニューテクノフォーラムにて基調講演とパネルディスカッションをした後、精密工学分野の研究者による新技術シーズを講演して頂きました。また、この講演会は経済産業省関東経済産業局のご後援を頂き、関東地区を中心とするものづくり企業や各地域の産学連携コーディネータにもご参加頂きました。講演会後には、講演者と参加者との技術交流会を開催し、懇親を深めました。この企画では、ニューテクノフォーラムおよびシーズ講演会に 65 名、懇親会に 46 名の多くのご参加を頂き、盛況に終了致しました。

### 1. 2014 年度(第 7 回)ニューテクノフォーラム(NTF)

#### 「”地上資源”活用のための最新リサイクル技術とその課題」

北嶋精密工学会副会長の企画により、以下のように、物質・材料研究機構の原田幸明氏の基調講演の後、住友電気(株)の池ヶ谷明彦氏と新日鐵住金(株)の菅原敬介氏を交えて、リサイクル技術に関するパネルディスカッションを致しました。

- 基調講演「レアアース・レアメタルのリサイクルの現状と今後の課題について」

物質・材料研究機構 原田 幸明 氏

- パネルディスカッション

話題提供「超硬合金のリサイクル技術」

住友電気工業(株) 池ヶ谷 明彦 氏

話題提供「鉄鋼材料のリサイクル技術」

新日鐵住金(株) 赤司 有三 氏

このフォーラムでは、レアアースやレアメタルに関する国内外の状況を説明して頂き、それらのリサイクルに対する技術の現状を多方面から紹介して頂きました。また、今後、大企業だけでな



ニューテクノフォーラムでのパネルディスカッション



戦略的基盤技術高度化支援事業に関する説明

く中小企業も含めた製造業が取り組むべき課題やこの分野における技術開発の指針について議論されました。

### 2. 産学連携のための新技術シーズ講演会

まず、経済産業省関東経済産業局の大隅一亮氏より、「新たな『戦略的基盤技術高度化支援事業』の活用とポイント」と題して、経済産業省の今年度の補助金事業の紹介とその申請書の書き方に関するご講演を頂きました。企業参加者にとっては、戦略的基盤技術高度化支援事業は関心の高い補助金事業であるため、



精密工学会で活躍している研究者からの新技術シーズ紹介



技術交流会で交流を深める企業参加者

多くの方がこの講演に興味を持たれていました。

次に、研究機関のシーズ紹介として、精密工学の分野でご活躍されている5人の研究者に下記のシーズについてご講演頂きました。

- 非鉛圧電アクチュエータの開発  
東京大学 森田 剛 氏 氏
- 松葉杖形両脚用および片脚用歩行支援機械  
東京工業大学 武田 行生 氏
- 汎用加工機による Co-Cr 合金製人工股関節の高精度 ELID 研削加工  
栃木県産業技術センター 江面 篤志 氏
- レーザ重畳照射法による微細形状金型の高度焼入れシステムの開発  
滋賀県立大学 小川 圭二 氏
- 水酸化フラーレンを利用した難加工材高効率研磨技術に関する研究  
九州工業大学 鈴木 恵友 氏

ご講演頂いたシーズは、いずれも科学技術振興機構の研究成果最適支援プログラム(A-STEP)で採択を受けたものであり、本会賛助会員の企業参加者および中小企業参加者には、実用性の高い新技術としていずれも高い関心を持って頂きました。

また、今回は大学研究者だけでなく公設試の研究者にも話題提供して頂き、「産学公」の連携に対する一歩を踏み出しました。

### 3. 技術交流会

講演会後は、講演者と参加者を交えた技術交流会により懇親を深めて頂きました。この交流会は、賛助会員をはじめ精密工学分野の企業の方々の懇親を深める産産連携のきっかけの場として企画したものです。今回は参加者が50名近くあり、会場全体に技術的な話や商談が見受けられました。また、技術紹介のパンフレットや資料をお持ち頂いて説明されている中小企業もあり、懇親とともに商談の場としてもご利用頂きました。

### 4. 最後に

精密工学会の石原前会長のもとで開始した産学連携支援の企画は、今回で3回目を迎えました。当初は手さぐりで企画した講演会でしたが、産学連携の財団等のコーディネータからは、学会が積極的に産学連携を推進することは大変新鮮で、是非進めて欲しいとの声を頂き、なんとか軌道にのせることができました。リーマンショック後の景気後退により、経済動向が読めなくなった現在、多くの学会が会員確保に対していろいろとご苦労されているようです。本会も例外ではありません。そのため、学会としてはより大きな社会貢献が求められるようになりました。これを受けて本会では、多くの関連分野の方々に精密工学会の活動および対象分野を知って頂くために、講演会参加費を無料、技術交流会参加費のみを2000円として、非会員、非賛助会員企業も含めて多くの企業の方にご参加頂きました。今後も、この講演会をより多くの企業の方にとって頂き、さらに、

発展できるように企画を続けられればと存じます。

最後に、本講演会に多大なるご支援とご協力を賜りました経済産業省関東経済産業局および精密工学会春季大会実行委員会の関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。